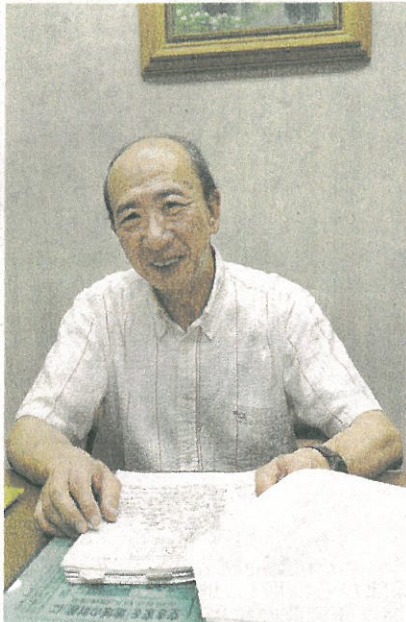


# 秋田・NPO来月本格始動

# 空き家貸借仲介

## 集会所や子ども居場所を活用



「空き家を負の遺産から地域の財産に」と語る佐々木理事長

空き家を地域の集会所や子どもの居場所などに活用できるよう、貸借を仲介するNPO法人「住まい安心サポート秋田」が8月、秋田市で本格始動する。所有者に一層の管理を促す空き家対策特別措置法の施行を受け、危険な空き家になっていないか見回りも引き受ける。NPOは「空き家を負の遺産から地域の財産に変えたい」と意気込む。

# 負の遺産 地域の財産に

行政書士、1級建築士、町内会長ら15人が設立した。元秋田県商工会連合会事務局長の佐々木義文さん(65)が理事長を務める。8月中旬にウェブサイトを設け、借り受け希望と不動産の登録を始める。空き家になっても、仏壇があつたり、施設に入っている高齢者が盆と正月だけ帰って来たりと、賃貸が難しい不動産は少なくない。「仏壇のある借家はあるが、集会所や児童館であれば問題

にならない」と佐々木理事長。町内会が借り手なら安心感があり、換気や掃除など維持管理もできる。貸し手は思入れのある家を処分せずに済み、地域貢献にもつながる。

不動産業者が扱いにくいような個別の事情にも応える。福島第1原発事故や東日本大震災で避難している人に安い空き家を提供したり、作品作りで大きな音が出る芸術家に隣家がない場所の空き家を紹介したり、きめ細かに対応する。対象物件は秋田市内に限定。相談や仲介は無料で引き受けるが、契約は不動産会社を紹介する。建物だけでなく、保育園の送迎用駐車場や雪捨て場など、空き地の仲介も担

う。住宅見回りサービスは企業のサービスマンより価格を抑え、月1回で1500円程度を想定している。建物の破損がないか、庭が荒れていないかなどを調べ、遠方の所有者に報告する。換気や除草、ごみ捨てなども別料金で引き受ける計画だ。

市内を5ブロックに分け、計50人のボランティア「住まい安心見守り隊」を今秋に組織する。防犯・防災パトロールを通じ、「空き家予備軍」にも目配りする。

佐々木理事長は「空き家対策を出発点に地域コミュニケーションを守りたい。真っ暗に成り行く街に、1軒ずつでも明かりをともしていく」と力を込める。